

村長の日記

7月2日（月）

今年の6月は過ごしやすい1カ月だった。気温が上がらず寝つけないほどの暑い夜は無かった。しかし、ここ2~3日は急に気温が上がり、例年通りの夏になった。

今日は辞令交付、7月1日付けで採用を行った。

10:00

大阪国道事務所長 来庁

所長は、何回か村の「道の駅を」視察してくれたらしい。村の農地は全て棚田、段々畑、昔の村人は大変な農地作りの工事を行った。棚田に水を引くために数キロ先から灌漑工事を行った。まともな土木機械の無い時代、鎌、鍬を使って山肌を削り、水を引いてきた。米がいかに大切な作物だったかがわかる。

棚田ばかりの村にとって、農産物を通年道の駅に供給し続けるのは不可能に近い。地元産品だけを売るだけでなく、新しい形の道の駅を考えるべきだ。和歌山県古座川町では、道の駅は1つではなく、町内に3カ所。道路を通過する人ではなく、町内の買い物難民向けの施設として利用しており、コンビニが無い地域住民の要望に込めている。

道の駅は国内に沢山あるが、ただ地場産品を売るだけではなく、いろんな特徴を持った地域特有の道の駅を考えたらいい。道の駅特有のカラーが客を呼び、住民を引き付けることになり、村の発展、活性化につなげることが出来る。

村では道の駅リニューアルに向かって審議会を開き、検討を行っている。

- ・ 新設する場所は
- ・ 運営主体をどうするか
- ・ 販売する商品は？、道の駅の機能は？

出来るだけ早く決定して、大阪では1番小さい道の駅だが村を元気付けるポイントの1つになればいい。

7月3日（火）

今朝は少し涼しい、しかし役所へ着いた所、奥千早とは違い、暑い。下界は暑いんだ。

10:00

村長の日記

社会を明るくする運動 伝達式

例年の行事だが、富田林地区保護司会及び更生保護女性会の集まり。最初に富田林保護司会会長より安部総理のメッセージを受け取った後、挨拶となった。社会を明るくする運動は、罪を償った人たちが社会に溶け込み、元気に生活し、2度と過ちを起こさないようにするのがメインの仕事。今の日本の様に平和で、世界から羨まれるような国はあまり世界中にない。2度と過ちを起こさないようにするには、保護司の方々、更生保護女性会の皆さんの力が必要。いい村いい日本の社会づくりに頑張っていたきたい。

7月4日（水）

15:00

全国防火トップセミナー

昨年の豪雨で木材流出による大きな被害を出した、福岡県東峰村長 渋谷村長の話。

東峰村は人口 2150 人、高齢化率 42%、面積 52 平方キロ、うち山林原野が 86%、平成 30 年度予算が 52 億円(内 26 億円が災害復旧費)。同村豪雨被害の特徴は、木材の流出により橋に木材が引っ掛かり、土砂がせき止められて水があふれ出したのが原因であるとともに、時間降雨量が 100mm の大雨が数時間にわたって振り続いた。東峰村の宝珠山庁舎では、9 時間で 750mm の降雨記録だった。

今回の災害対応で学んだこと

- ・ 今回のような大災害はいつか必ず襲ってくる。
- ・ 1 度有ることは 2 度、2 度ある事は 3 度ある。
- ・ 災害は忘れたころにやってくる。
- ・ まさかここでこんな災害が起こるとは思わなかった。
- * 今回の災害発生要因
森林の荒廃(木材価格の低迷、生活様式の変化)
林道、作業道の影響、雨水が集まりやすい、排水路の整備が必要。
- * 今回の災害で村長の 1 番恐れた事
 - 集落の孤立化と、高齢者の緊急事態対応。

村長の日記

➤ 道路の緊急復旧には2カ月かかると思っていたが、国交省、県、自衛隊の作業で8日弱で再開、各方面への働きかけが大切。

* 東峰村大災害の特徴

想定を超える大雨と、山が死んでいること。

- 記録的大豪雨がいつどこで起こるかかわからないが、人の命を守るのが最優先。
- 土石流災害をどう防ぐか？。
- 死んだ山の再生は。
- 砂防堰堤設置により減災、防災に努めること。
- 早い避難が大切。
- 防災訓練で災害に対する住民意識の高揚。

等々の話を聞いた。村も災害がいつか来る。防災意識を持って対処しよう。

7月9日（月）

朝から晴天、大阪は37℃の予報。

木曜日から始まった豪雨は広い地域に大きな被害をもたらしたが、千早赤阪村はほとんど被害なし。金曜日の朝、千早にある雨量計では、朝7時1時間雨量4mm、積算雨量では78mm。村に被害の発生する雨量は積算雨量で250mm以上、250mmを超えたあたりから、がけ崩れ、林道の流出が始まる。

昨年10月の台風21号では雨量は1000mm、災害救助法が発動されるほどの大災害だった。

土曜日の午前2時には警報解除となり、避難所を閉鎖、6時から当直の職員6人に村内を1周してもらったが何事もなく、解散した。

帰宅してテレビを見ると、四国、中国地方が豪雨で大きな被害を出している。一方、村では雨が降ったものの大雨には至らず、不幸中の幸いだった。

河内、奈良盆地は遥か昔から人が住んでいる。大昔から天災が少ないので、朝廷があつたり、人が多く住んでいた。

千早には昔からの言い伝えがある「古木(古い大木)の後には植林を」。大木のある所は自然条件が良く、植林をすれば大木に成長する。

千早赤阪村は昔から地震に強い。私は単純に、金剛山があつて非常に重いからゆれない理解していた。重くて揺れないのは勿論だが、南側

村長の日記

にある紀ノ川断層帯から少し離れている。村内には大きな断層帯が無い。金剛山の地層が強いからだ。

午後

大阪府財政課長 来庁

課長の予定を見ると

10時20分 道の駅かなん、10時50分 河南町長挨拶、11時15分 永福寺、11時40分 太子町長挨拶、昼食後、13時30分 千早赤阪村長挨拶、下赤坂の棚田、桜茶屋、ロープウェイ、千早赤阪星と自然のミュージアム、17時 意見交換会、20時 近鉄富田林駅。
超忙しいスケジュール。

7月10日（火）

6日から降り始めた豪雨は、本日現在で死者126名、不明者80名を超える大きな被害を残した。瀬戸内北の広島47人、岡山36人、瀬戸内南の愛媛25人。

愛媛の災害が大きい報道があったので愛南町長に電話をした。幸い愛南町は大した被害が無いが、隣街が大変だったらしい。

私たちの仕事は村内、町内の安全、安心が第一。

昨年の台風21号の時は、村内避難所、がけ崩れ、河川の増水、住民の安全が第一で周囲の市町に気を使う余裕が無かったし、周辺の事情が把握できるまでかなり時間がかかった。

職員が10月から正月返上で努力し、国への陳情、府への陳情・要望を行い、測量、設計、入札、業者発注を経て、復旧工事は早くも8月完成予定。

村は死者、行方不明、けが人は出ていない。今回の様に死者、不明者が大量に発生した場合、災害の処理は大変な手間と時間を要する。各地の首長、担当者の苦労を思うと、村が何事もなかった事にただ感謝。

7月11日（水）

NHK大河ドラマで楠公さんを！！

後醍醐天皇が隠岐の島に流されていたのは、今の隠岐の島町。隠岐の島を脱出して着いたのが現在の琴浦町。名和長年に匿われ、同町にあ

村長の日記

る船上山へ身を寄せた。その後京へ上り、日本で初めての革命「建武の中興」が成就する。

隠岐の島町の役所へ電話すると、非常に好意的な答えが返ってきた。「ぜひ大河ドラマに取り上げていただくように」私たちが訪問の話をすると「日程が会えばいつでも」。

琴浦町は「その話は近隣市町から聞いた、ぜひ町へおいでください、何なりと協力する」。豪雨で暗い話が多いが、ちょっと明るい話。

今日から、下水道関係の職員と共に五島列島の苓北町で行われる、全国町村下水道大会に参加予定だった。先週金曜日からの西日本豪雨で今年の全国大会は取りやめ。村は来年当番となっており、担当職員は来年のトレーニングもあり、見学、研修の予定をしていた。来年の下水道大会はメイン会場をシティプラザホテルとして、予定通り開催、後は村を挙げてぶっつけ本番となる。

7月16日（月）

金剛山の里を守り育てる 千早赤阪村環境条例説明会

昨年3月、村議会で千早赤阪村環境条例(仮称)制定を求める請願が採択された。

29年7月、環境条例制定プロジェクトチームを立ち上げ、11月ワークショップメンバー募集、11月～30年3月ワークショップ3回。

30年1月、第1回環境条例検討委員会～30年6月検討委員会4回。

30年7月、パブリックコメント、本日の説明会となった。

環境条例は小吹台入口の自動車解体業者進出から始まった話。それ以前に、千早地区に隣接するし尿処理場固形物再処理施設の臭気問題もあった。

本日の説明会で、この条例はあくまでも村内問題の処理に有効、他市町はこの範囲ではない。

条例の文中、企業進出では「住民の十分な理解を得るように」ではゆるい「住民の同意を取り付けること」、又「指導することが出来る」

「勧告することができる」ではゆるい、出来るを止めて語尾をもっと強く出来ないか、等々の質問が相次いだ。条例については国、府の法令があり、その上位法の範囲で条例を作るので、おのずと表現に制限がある。

環境条例についてはパブリックコメントの意見を参考に、法律の専門家、大阪府、国とも十分相談の上限度一杯まで表現し、今一度検討委員会で揉んで9月議会で成案としたい。

村長の日記

7月18日（火）

区長会

昨年10月、台風21号で千早赤阪村は大きな被害を受けた。特に中津原、上東阪、小吹地区で崖崩れが多く発生し、昨年末から国の査定を受け、大きな援助を受けながら復旧工事を行ってきた。府道、村道に被害が及ばないがけ崩れの復旧は、地主が行うのが原則。しかし多くの区長さんから、行政に関係のないがけ崩れも役所でやれないかの要望が多くなってきた。

行政は原則として個人の土地の復旧工事は出来ない。今回に限って各地の区長が事業主体となり、どうしても必要な復旧工事は行政の補助上限200万円で実施していただくことにした。

地域の仕事は地域で、行政はあくまでそのサポート役に徹する。災害復旧だけではなく、どうしても地域に必要な事業は地域主導で動かしてほしい。最近国内では地域コミュニティが主導で地域のことは地域で動かしていく、行政はバックアップがトレンドだ。

7月19日（木）

防災用品寄贈式

小金丸工業(株)様、プロデュース 紀陽銀行。

この度、小金丸工業(株)（春の家から楠比庵へ降りる途中に沢山の大きな鉄パイプが置いてある、大きなビル建設に伴う基礎工事に使うパイプのリースを行う会社で、現在日本で3社しかない会社）、紀陽銀行のお世話により、村へ防災用品を寄贈いただくことになった。

- ・ ファミネットピック高級雨合羽100着
- ・ 高輝度LEDライト100セット

最近のように、すぐに大雨警報が出る時代、台風、豪雨警報が出た場合、職員数の少ない村ではすぐ全員待機となる。夜間雨の中の見回りに欠かせない品物を頂いた。村の安全と安心に役立ってます。

おいでいただいた会長、社長さんにお礼を申し上げた。

村長の日記

7月20日（金）

大阪府町村長会 定例総会

6月18日、大阪北部地震が発生し死者を出した。西日本広域に大きな被害を出した7月豪雨では、土砂崩れ、河川の氾濫、堤防の決壊により、250人を超える多くの命が失われた。亡くなられた方々のご冥福と被災された皆さんに、心からお見舞い申し上げます。

全国町村会から大阪北部地震に対し、お見舞金や電報を頂き、大きな被害を出した島本町へ贈呈させていただきました。

日程第1

- * 平成31年度、大阪府施策並びに予算に対する要望。
 - * 市町村の合併、広域連携には市町村の意見を十分反映させること。
 - * 自主的な合併連携を希望しながら、困難な町村に対する十分な支援を講じる事。
 - * 関空を国際拠点空港として、すべての面で環境整備を行うこと。
 - * 町村のシステム、クラウド化支援を財政面からも強力に行うこと。
 - * 安全、安心な街づくり推進に向け交番の増設を。
 - * 過疎地域も大阪市内同様のインフラ整備を。
 - * 府内の道路整備を早急に近隣府県並みにレベルアップを。
 - * 税と社会保障の一体改革が進められる中、社会保障には大きな財政負担を生じる。財政基盤の弱い町村には確実な財政措置が必要。
 - * 財政基盤の弱い町村には低利の起債発行事業拡大を。
 - * 税改正に伴うシステム改修費は交付税以外の財政措置を。
 - * 南海トラフ大地震に対し(減災)(人命)を最重要視、経済的被害の最小化を。
 - * 町村の自主防災組織へ財政を含む支援を。
 - * 救急医療体制の安定的確保を。
 - * 自然災害が多発する中、公立学校施設の耐震化、老朽化、空調設備対策への財政措置を。
- *人権問題の根本的解決に向け人権尊重の施策推進と所要の財源確保。

以上要望の1部。

村長の日記

- ・ 大阪府町村長会一般会計歳入歳出決算
- ・ 大阪府町村長会特別会計歳入歳出決算
- ・ 平成29年度全国町村職員生活協同組合大阪府支部共済事業会計歳入歳出決算。
- ・ 平成29年度全国町村会保険事業事務費交付金会計歳入歳出決算。

以上を承認。

- ・ 大阪府警察本部より
平成30年度大阪府安全安心町づくり推進会議総会結果報告。
- ・ 大阪府危機管理室より
9月5日「大阪880万人訓練の実施」
消防力強化のとりまとめ及び今後の広域化検討。
- ・ 井出都市整備部長より
大阪府都市基盤施設維持管理データベースシステムの説明。

以上で終わり。

7月24日（火）

大阪府治山治水協会総会(アートホテル大阪ベイタワー)

今日の総会は、会長の岸和田市信貴市長が仕切る予定だったが、選挙の関係で副会長の私が議長を務める事となった。

この協会は年間予算400万円、村の会費は14万円。村より年会費が多いのは能勢町32万円、和泉市20万円、河内長野市18万円。村は4番目に多い。これは山林が多い自治体だからだ。

林業構造改善事業、森林病虫害等防除事業、公共治山事業、つまり森林の多い山林面積の多い市町村は会費が多い。

福岡県の大雨、本年の西日本大水害の映像で理解できるが、少し大きな雨が降ると手入れ不足の山から木材が大量に流出し、川をせき止めたり、橋に引っかかり川の流れを変える。防災の観点からも、治山が大切。

昨年10月に村を襲った台風21号、22号で、村は、上東阪、中津原、小吹で山崩れなど発生したが、村落周囲の沢で砂防堰堤が完成し

村長の日記

た千早地区は被害が無かった。やはり先手必勝「備えあれば憂いなし」。

来年から森林経営管理法、および国の森林環境譲与税制度が始まる。森林整備、人材育成、木材利用促進、普及啓発事業は、市町村が主体となり事業を行う。良い山作りは安全、安心な村造り。

府内市町村が情報を共有し、森林整備に取り組もう。

7月27日（金）

(株)アグリメディア代表取締役 諸藤さん来庁

アグリメディアの代表的な仕事は、農地を借りて農地を集積し、農業従事者を集めて農産物の生産を目指す。シェア畑と称し、農業を目指す人に作り方の指導、作目の選定を教え、農業の普及を目指す。

- ・ ベジQ、収穫体験付バーベキュー

農産物を収穫し、その野菜をすぐにバーベキューの材料として、取り立ての野菜、新鮮な野菜の甘さを体験させることにより、農業の楽しさを教える。

- ・ 丹沢山塊のふもとで道の駅を運営

千早赤阪村と同じような山間地で道の駅を運営している。道の駅は、ただ農産物、地域の名物、名産を売るだけでは駄目。お客さんのニーズを取り入れるとともに、お客さんを作り上げる努力が必要。

客と地域と道の駅が一体となって、常に変化しながら営業を続けることが必要。

農業学校、「アグリアカデミア」運営。産直野菜を活かした「農家カフェ」営業。

7月30日（月）

13:00

全道協事務所

河内長野市長、河南町長、私が集合。今日はこれから大南高「大阪南高速道路」に陳情に向かう。本日は竹本直一代議士に先導していただく。

村長の日記

14:00

自民党本部、政務調査会長室、岸田政調会長と面談。南河内交通不毛3角地帯の状況を訴え、ぜひ阪和道と京奈和道の間には高速道路を建設して、人口流出、企業流出が止まらない南河内のポテンシャルアップをお願いした。

岸田政調会長から「私はもちろん、竹本代議士、皆さんと共に実現に向け頑張ろう。」

15:00

竹本代議士事務所

ESCO事業の要望。

竹本代議士より、内閣府地方創生推進事務局参事官補佐を紹介いただき、陳情活動後17時訪問を約す。

16:00

石井国土交通大臣訪問

国土交通大臣には石川参議院議員、竹本代議士が同道いただく。石井大臣は非常にシャープな方、話の返しも早く的を得ている。

「楠公さん誕生の村で千早城、棚田 他、非常に史跡が多い。然し交通の便が悪く、今大阪の“へた”と言われている。奈良県、和歌山県の道路が先進国なら、大阪の河内は発展途上国まで行かず、後進国並み、出来るだけ早く改善してほしい。」

大臣は和歌山県に勤務したことがあり、紀泉山脈以南は良く知っているが北側の状況はわからなかった。「河内泉南の道路状況を解明する目的で新しい組織を作った、ぜひ早く解明したい。」

訪問後、国交省の森技官、(8月1日より事務次官)、副大臣、政務官、各課長を訪問し陳情を終わる。

17:00

環境庁訪問

ESCO事業のレクを受ける。

ESCO事業の事業者を選定するのは私たちが判断するのではなく、ESCO事業選定の専門部門で決定する。したがって私たちは家庭教師的な役割で指導はできる。相談においでいただければ、いい助言ができたはず。来年度の予算は今のところ不明だが、ぜひ私たちに相談していただきたい、いい結果が出せるかもしれない。

村は今、大阪府、国との交流が非常に少ない。一般職員は言うに及ばず、私も含めてより一層の交流が必要との思いを深めた。